

第1学年〇組 道徳科学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時

授業者 教諭

1 主題名 仲よく、助け合っ

2 ねらい 友達関係の変化を話し合い、友達だからできることについて考えていくことを通して、友達と一緒に活動することのよさに気づき、友達と仲よくし、助け合おうとする態度を育てる。

教材名 「およげないりすさん」(出典:「わたしたちの道徳 小学校1・2年」文部科学省)

3 主題設定の理由

(1)ねらいや指導内容について

本時は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目「友達となかよくし、助け合うこと。」に関するものである。これは、友達関係における基本とすべきことであり、友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを育むことをねらいとしている。

この内容項目について、他の学年との関連をまとめると以下のようになる。

小学校 1 学年及び 第2学年B	小学校3学年及び 第4学年B	小学校5学年及び 第6学年B	中学校 B
友達と仲よくし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合っって友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	友達の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についても理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

友達と仲よくするとは、いつも相手に合わせて気を遣いながら一緒に活動するというのではない。時に対立し、主張し合い、それでも相手に対する思いやりを失わずに友達関係を続けるということである。友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに理解し、協力し合う活動を通して構築されるものである。また、同世代として、似たような体験や興味・関心を有することから、互いの考えを交流し、高め合うことを通して、互いの成長と共に影響力を拡大させていく。友達は、家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くためには、日常的に自分はどうかあるべきかを主体的に考えさせる活動を大切にしながら、互いを認め合い、理解し合い、助け合い、信頼感や友情を育んでいくことができるように指導することが大切である。また、異性についても互いに理解し合いながら人間関係を築いていくことが必要である。

低学年児童の段階においては、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。自分本位な言動によって気付かないうちに友達を傷付けてしまうこともある。しかし、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲良く遊んだ

り、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。そこで、友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感させながら、相手の気持ちに寄り添い、仲よく助け合うことのよさを感じられるようにしていきたい。

(2)これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、明るく素直に生き生きと活動する児童が多い。友達が困っている時には、友達の話を聞いて「大丈夫だよ。」と声をかけている姿も見られ、友達のために何かしてあげたいという気持ちが大きい。その気持ちの大きさから、友達のためと思つての言動が、時に相手の負担や迷惑になってしまうこともある。休み時間になると、たくさんの児童が一緒になって外遊びを楽しんでいるが、友達同士の関わりの中で、自分の思いがうまく伝わらず、トラブルになってしまうことがある。

1学期の音楽科では、友達と触れ合いながら歌を歌うことや、友達と協力しながらリズムを作ることの楽しさを感じていた。また、国語科の「おおきなかぶ」の音読劇では、友達と助け合いながら練習に取り組み、友達と役を演じることを楽しんでいた。様々な学習活動の中で、協力して活動することの楽しさを実感してきている。2学期から始まった係活動では、「クラスみんなが楽しくて気持ち良く」を目指して取り組んできた。しかし、自分のやりたいことや自分の思いを優先することが多く折り合いがつけられないことも多い。友達と活動することのよさを感じているものの相手の気持ちを考えず自分の思いが強くなってしまふといった実態がある。

以上のことから、自分本位ではなく、友達の気持ちに寄り添いながら、友達と一緒に活動することのよさや大切さを実感させていく。自分本位であることが時に相手を傷付けてしまう場合もあることに気付かせながら、友達だからできることを考え、友達と仲よくし助け合おうとする態度を育てていきたい。

(3)教材の特質や活用方法について

かめ、あひる、はくちょうが池の中の島へ行こうとした際に、「一緒に連れて行ってほしい」と言うりすに、泳げないから駄目だと断ってしまう。りすがいないまま遊んでも楽しくなかったみんなは、次の日、りすに昨日のことを謝り、今度はりすをかめの背中に乗せて、みんなで島に向かうという内容である。

仲間外れは、低学年における友達とのトラブルとして見られる状況である。自分の思いが先にたち、自分にとって都合の良いことを優先させることで友達が嫌がることを何気なくしてしまつたり、仲間外れにしてしまつたりすることがある。かめ、あひる、はくちょうの自分本位な言動によってりすを傷つけてしまつていたことに気付く場面からは、自分の生活と関連づけて考えることで、人間理解を深めることができる。かめ、あひる、はくちょうたちの気持ちの変化を考えるのと同時に、一人ぼっちになってしまうりすの気持ちについても考えることで、自分だけでなく友達の気持ちも考え、仲良くすることが望ましい人間関係を築く上で大切であることに気付かせていく。また、りすに謝り、りすをかめの背中に乗せて行く場面からは、友道を傷つけてしまつたことに気付いた場合にどのように行動することがより良い人間関係につながっていくのかにも触れ、その上で、助け合うことの大切さについても考えさせていきたい。

そのために、本時の話し合いでは、以下の流れに沿ってねらいとする道徳的価値にせまっていふ。

- ① かめ、あひる、はくちょうが「りすさんは、およげないからだめ。」と言つた場面では、断られたりすの気持ちから、かめ、あひる、はくちょうの自分本位な行動について考えさせる。また、気付かないうちに相手を傷つけている場合があることに気付かせ、人間理解を深める。
- ② 島で遊んでいた場面では、遊んでいても楽しくないかめ、あひる、はくちょうに共感させ、「なぜ楽しくないのか。」と問題提起し、りすを一人ぼっちにしてしまつたことを後悔する気持ちを自分自身との関わりで

考えさせる。

③りすに謝り、一緒に島へ向かう場面では、役割演技を行い、みんなで一緒に行くことのおよさや助け合うことの大切さについて実感を伴って考えさせ、これからの生き方につなげていく。

以上の理由から本主題を設定した。

4 研究主題との関わり

・研究主題及び仮説に迫る手立て

学校教育目標	・自分で考え 実行する子 ・みんな仲良く 優しい子 ・のびのび元気なたくましい子
研究主題	『自己の生き方を考え、主体的に実践しようとする児童の育成』 —「考え・議論する」道徳授業の創造を目指して—
目指す児童像	明るい心でよりよい人間関係を築き、相手の気持ちを考えて行動する子

【仮説1】

道徳科において、児童が問題意識をもち、議論の生まれる学習展開の工夫をすることにより、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

《具体的な手立て》

① 学習問題の明確化

導入では、授業全体を通して追究していくテーマを掲げ、問題意識をもたせることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。

② 児童相互の話合いを深める手立ての工夫

ペアでの話合いや意図的指名、問い返しの発問を適宜行うことでねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えながら、児童一人一人が自分事として考えを深め、テーマに対する納得解を導きだせるようにする。

③ 授業のユニバーサルデザイン化

登場人物の友達関係の変化を板書で対比的に表し、視覚的情報を効果的に活用して、思考を「見える化」する。また、役割演技を行うことで、新たな気づきを得たり、考えを共有したりしながら実感を伴う学習にする。

④ 書く活動で深い学びへ

導入、展開で同じ発問を投げかけ、児童が自身の考えの変容を感じられるようにし、これからの生き方につなげていく。

⑤ 指導観シートの活用

指導観シートを作成、活用し、教材を通して何を考えさせるのか、どういう発問をすることで児童が主体的に考えるのかを吟味し、明確な指導観のもとに授業を構想する。

【仮説2】

全教育活動における道徳教育を計画的・発展的に指導することによって、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができ、主体的に実践しようとする児童が育つであろう。

《具体的な手立て》

① 生きて働く別葉の作成と活用

別葉を作成し、友情、信頼について、各教科等の活動で意識して子どもたちに働きかけてきた。その上で、本時の学習では「深化」を意図して授業を行い、道徳的価値の意味や自己との関わりについて考えを深めることができるようにする。

② 道徳重点目標の意識化

道徳重点目標に関わる授業の足跡を掲示し、授業で考えたことを振り返ったり、日々の生活の中で意識化したりして、よりよい生き方を見つめることができるようにする。

③ 日常生活を想起する

導入では、児童自身の友情、信頼についての考えを日常生活の関わりの中から想起させ、自分との関わりで考えることができるようにし、問題意識を高めて学習に取り組めるようにする。

5 学習指導過程

段階	学習活動と○主な発問	・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 「友達だからできること」について考える。</p> <p>○友達だから、できることは何でしょうか。</p>	<p>・遊ぶ。</p> <p>・仲よくする。</p> <p>・けんかする。</p> <p>・やさしくする。</p>	<p>・授業全体を通して追求していくテーマを掲げて問題意識をもたせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。</p> <p>・日常生活と関連付けながら、自分事として考えられるようにする。</p>
ともだちだから・・・			
展開	<p>2 教材「およげないりすさん」を読んで話し合う。</p>	<p>・かめ、あひる、はくちょうは池の中のしまへ行って遊ぶ相談をしていた。そこにりすがやってきて、「ぼくもいっしょにつれていって。」と頼むが、「りすさんは、およげないからだめ。」と断り、しまの方へ泳いでいってしまう。</p> <p>・しまに遊びに来た3人は遊んでいても少しも楽しくなかった。</p> <p>(1)「およげないからだめ。」と言われたりりすさんはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>・なぜ3人は、りすさんにそんな話をしたのでしょうか。</p> <p>(2)かめさん、あひるさん、はくちょうさんは</p>	<p>・本時は、教材を通じて「ともだちだから、できることはなにか。」について考えることを伝える。</p> <p>・およげないからと断られたりすの気持ちから、かめ、あひる、はくちょうの自分本位な行動について考えさせる。また、気付かないうちに相手を傷つけている場合があることに気付かせ、人間理解を深めさせる。</p> <p>・遊んでいても楽しくないかめ、あひる、はくちょうに共感させ、「なぜ楽</p>

	<p>なぜしまで遊んでも楽しくなかったのでしょうか。</p> <p>(3) つぎのひ、池のほとりでみんなは、りすさんとどんな話をしたのでしょうか。</p> <p>3 学習課題について考えをもつ。 ○これから友達にどのようなことをしていきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・りすさんにごめんなさいの気持ち。 ・みんな一緒にくればよかったと思っているから。 ・りすさんがいやな気持ちになっていることに気付いたから。 ・しまに来なければよかったと思っているから。 ・ごめんね。寂しい思いをさせて。 ・みんなで一緒に行こう。 ・みんなで行くと楽しいよ。 ・りすさんがにこにこでうれしい。 ・助け合うと気持ちがいいね。 ・これからも困ったときは助けるよ。 ・友達だから仲よく助け合う。 ・友達だからみんなで遊ぶと楽しい。 ・友達だから気持ちを考える。 	<p>しくないのか。」と問題提起し、りすを一人ぼっちにしまったことを後悔する気持ちを自分自身との関わりで考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすについて話し合う3人の言動が友達だから仲良く助け合おうとする姿であることに気付かせ、道徳的価値について理解を深める。 ・役割演技を行い、みんなで行くことよさや助け合うことの大切さについて実感を伴って考えさせながら、自分事として考えられるようにする。 ☆役割演技で自分の意見と友達の意見を比べながら聞き、友達の考えを聞いて気付いたことや考えたことを伝えようとしている。 (発表、つぶやき、表情) ・これまでの学習から、友達だからできることは何かを考え、これからの自分自身の生き方につなげていく。 ☆友達とよりよい人間関係を築くために大切なことについて、自分の生き方と関連付けながら考え、ワークシートに書いている。 (発表、つぶやき、表情、ワークシート)
終末	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲よく助け合うことよさを感じた教師の経験について話す。

6 他の教育活動との関連

事前指導	音楽科「はくを かんじて あそぼう」において、友達と協力してリズム作りをし、一緒に活動することの楽しさに気付かせる。
道徳科	10月 「およげないりすさん」

	<p>友達関係の変化を話し合い、友達だからできることについて考えていくことを通して、友達と一緒に活動することのよさに気づき、友達と仲よくし、助け合おうとする態度を育てる。</p> <p>2月「二わのことり」</p> <p>みそさざいの心の葛藤を話し合い、友達のために自分ができることについて考えていくことを通して、思いやりをもって行動することの大切さを感じ、友達と仲よくし、思いやりをもって助け合っていこうとする心情を養う。</p>
事後指導	<p>特別活動「かかりはっぴょうかいをしよう」</p> <p>友達と話し合いながら工夫して係活動を行い、その成果を発表する中で友達のよさを見つけ、これからの係活動につなげることができるようにする。</p>

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・友達の発表を自分の意見と比べながら聞き、多様な視点から友達と仲よく、助け合うことのよさについて考えている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・友達と仲良く、助け合うことの大切さについて、自分との関わりで考えている。

8 板書計画



